

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2008～2013

課題番号：20252006

研究課題名(和文) 国際政治に見る欧州と東アジアの地域統合の比較研究 規範、安全保障、国境、人の移動

研究課題名(英文) Comparative Studies on European and Asian Regional Integration considering International Politics--Norms, Security, Borders and Immigration

研究代表者

羽場 久美子 (Haba, Kumiko)

青山学院大学・国際政治経済学部・教授

研究者番号：70147007

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,200,000円、(間接経費) 9,660,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、冷戦終焉後拡大・深化するEUと、急速に成長するアジアの地域統合を、制度・規範、安全保障、国境、人の移動の4点から多元的・多角的に検証した。特に制度化が進んでいるEUとアジアの地域統合の問題点と今後の課題を比較しつつ、アジアの発展の在り方を研究の中心に据え、その方向性を具体的に探り成果を上梓した。学術会議、駐日欧州代表部、EU・アジア研究者と連携して課題を明示し政策提言につなげた。その成果は、『国際政治から考える東アジア共同体』など、著書2冊、研究報告書3冊、英文書6冊、論文数十篇として上梓し、主な著書は日本の大学図書館、欧米アジア300か所の大学図書館に配本されている。

研究成果の概要(英文)：This research investigated the European Union, enlarged towards Eastern Europe, and Asian Regionalism, which swiftly developed and is surpassing the developed countries in the first decade of the 21st century, comparing following four points. 1) Institutions and norms, 2) Security, 3) Borders, 4) Immigrants under the Globalization. Investigating the problems and tasks on the EU and Asian Regionalism, researchers analyze the difficulties and make policies for the development on Asian characteristics more concretely.

Collaborating with SCJ (Science Council of Japan), Ministry of Foreign Affairs, EU-US and Asian researchers, we analyzed the regional integrations, considered the institutionalization, and the results were published as two Japanese books, (Asian Regionalism under the Global Age, etc), three research brochures, six English proceeding books and 30-40 articles. They were distributed 300 Universities Libraries in the US, Europe, Asia and Japan.

研究分野：国際関係論

科研費の分科・細目：国際関係論

キーワード：国際政治 地域統合 東アジア ヨーロッパ 制度、規範 安全保障 国境、越境 人の移動

1. 研究開始当初の背景

2002 年頃から政府や経団連が「東アジア共同体」を提案して以降、省庁や企業で「東アジア共同体」形成の様々な経済的試みが行われ始めた。本研究はそうした実情に鑑み、欧亜の地域統合研究を、学術面、特に国際政治の分野における理論・制度・政治・社会・文化のレベルから総合的に検討し、制度構築と実現に向けていかなる課題が存在しそれをいかに克服すべきかを検討するため、青山学院大学・東京大学・早稲田大学を軸に、国際政治の第一人者を集め、制度・規範・安全保障、国境、人の移動を切り口として、研究を組織したものである。

2. 研究の目的

2004-13 年にかけては欧州統合が最も現実に制度化が進展し理論化が進んだ時期であると同時に、ユーロ危機やゼノフォビアなど問題も抱えていた。またアジアでは急速な経済発展と共に領土問題や軍事化など対立の根をはらみ始めていた。そうした中で本研究助成を受け、欧亜の地域統合における当面する課題を分析するとともに、いかに制度化し問題を整理し克服するかが研究の第一義的目的となった。とりわけ、I. グローバル、広義の地域、国家、狭義の地域という、主権の重層化にどう対処するか、II. 欧亜の地域統合における多元的課題、統合研究、安全保障、民族と国家、人の移動とナショナリズムなど、にどう対処するか、III. その中で日本の位置と役割などの極めて重要な課題を、国際国内との共同研究により、政策提言も含めて検討し、その成果を様々な形で欧文、和文で刊行する等を課題とした。IV. 合わせて学会会議の国際政治委員会や欧州委員会 (EC) などと共に、国際的共同課題解決、政策提言をも目指すことを目的とした。

3. 研究の方法

以上を実行するため、我々は研究作業を、4つのグループ、即ち、国際政治の理論的再編、拡大 EC/EU の到達点と課題、東アジアの地域統合の現状と課題、移民問題に分けて組織し、緻密な研究活動を行うこととした。即ち、では、欧亜の地域統合の問題を国際政治上で理論的に整理し、グローバル化の下での地域統合の位置づけを、アメリカとの関係の中で明確にする(山本吉宣代表)、拡大 EU15 力国から 27 力国への変容を、国際規範、安全保障、ナショナリズム、越境的移民の問題から分析し、多元化した EU がいかなる課題を抱えているかを、東アジアと比

較しつつ検討する(羽場久美子代表、森井裕一)、東アジアの共同体構想や ARF, APEC 研究を、ASEAN, 中国との関係の中でより多元的に位置づけなおす。特に、中国の台頭、アメリカのグローバル化の進展と地域の国際戦略、国際制度と地域制度との関係などに焦点を当て、拡大 EU との比較を試みた(天児慧代表)。さらにグローバル化の下での越境の関係鶴を、具体的な人の移動として、法学的、社会的に捉え返す(宮島喬代表)、等を目指とし、共同・グループ研究を行った。

また特に若手研究者の参加を位置づけ、ポスドク(清水聡、吉野良子)や博士課程の院生(渋谷淳一)などとの共同研究により、冷戦及び冷戦後の地域統合の在り方と政策決定、欧州 Identity とアジア Identity の比較研究、メコン川などの下位地域協力等を、インテンシヴに研究しつつ、それを今後の地域統合の課題として位置付け直すことを目的とした。

4. 研究成果

5 年間の研究成果は、価値あるものであったといえる。毎年末に提出した、研究報告書(和文 3 冊、研究修了前年(4 年目)に刊行した和書 2 冊(山本・羽場・押村編『国際政治から考える東アジア共同体』(ミネルヴァ書房)、羽場久美子『グローバル時代のアジア地域統合』(岩波書店))、に加え、以下の英文 Proceedings 刊行 6 冊を研究成果として上梓することができた。

(1). *The Euro Crisis and European Political Economy, ---France, Germany and Central Europe---*, Ed. by Robert Boyer, Ivan T. Berend, and Kumiko Haba, Aoyama Gakuin University, Tokyo, 2013. 2). *Great Power Politics and the Future of Asian Regionalism, at Harvard University*, Ed. by Kumiko Haba, Aoyama Gakuin University Tokyo, 2013. 3). *Asian Economic Development and Collaborative Relations among EU, Asia and Japan*, Ed. by Kumiko Haba, Szerdahelyi Istvan, Brij Tankha & Wang Min, Aoyama Gakuin University, 2012. 194p. 4). *The Regional Integration and Institutionalization comparing Europe and Asia*, Ed. by G John Ikenberry, Yoshinobu Yamamoto, and Kumiko Haba, Shokado, Kyoto, 2012. 284p. 5). *The Regional Integration in Asia and Europe: Theoretical and Institutional Comparative Studies and Analysis*, Ed. by G. John Ikenberry, Yoshinobu Yamamoto, and Kumiko Haba, Aoyama Gakuin University, 2011. 177p. 6). *The End of the Cold War and the Regional Integration in Europe and Asia*, Ed by Robert Frank, Kumiko Haba and Hiroshi Momose, Aoyama Gakuin University, 2010. 451p.)

また台湾淡江大学とともに、*50 Years Rome*

Treaty and EU-Asia Relations, Ed. by Chong-ko Peter Tzou, Tamkang University, Taiwan, July 2008. 394p. を刊行することができた。

ミネルヴァ書房から出版された書籍は、若手研究者をも含み、理論、規範、安全保障、経済、地域と研究課題に対して、4年間の研究を多角的に総括する内容となっている。

英文報告書や英書については、研究成果のグローバル化とフィードバックの要請という観点から、欧米の各々100大学の図書館、アジアの約50大学の図書館に配本した。

また上記出版物刊行の他に、毎年国際会議を開催し、欧米アジア各国の地域統合の研究者との学術研究交流を実施した。この成果は上記研究成果に反映されている。

2010年は欧州5大使館、外務省、日本学術会議、世界国際関係史学会 CHIR と共催で、「れき千終焉と欧亜の地域統合」の国際会議を開催した。

また2012年5月にはハーバード大学において国際関係研究所(WCFIA)、日米プログラム、アジア・センター、ライシャワー・センター、ケネディー・スクールなどと共同で、国際会議を開催し、アメリカを代表する国際政治学者ジョセフ・ナイ教授、藤崎一郎駐米大使、スリン・ピッツワン・アセアン事務総長らとともに共同研究大会を行った。

さらに、2012年には、パリのソルボンヌ大学で、CHIRの国際会議に招聘され、羽場がキーノートスピーチとして「アジアの地域統合」を報告することができた。また最後の年である2013年2月には、日本学術会議、外務省、駐日欧州代表部らと共に、「ユーロ危機と地域統合 課題と成果」について、米欧アジアと協力しながら国際会議を開催した。

地域統合の理論化・制度化と、21世紀型の新たな課題解決は、未だに極めて重要な課題でもあり、この成果を引き継いでさらに研究を推進する所存である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計30件)

羽場久美子、「ヨーロッパの「危険地帯」中・東欧とバルカンの戦略文化」、『国際政治』、査読有、167号、2012、72-87頁。

羽場久美子、「「中欧」アイデンティティの夢と現実 拡大 EU・NATO のリアリティ」、『思想』、査読有、1056号、2012、9-29頁。

羽場久美子、「EUの歴史認識とジェンダー」、『歴史評論』、査読有、第748、2012、50-61頁。

山本吉宣、「地域統合とアジア太平洋/東アジア 理論と現実」、『日本研究』(高麗大学日本研究センター) Vol. 17、2012、79-115頁。

山本吉宣、「力のパラドックスと国際システムの変容」、『査読有』、『早稲田大学政治経済学雑誌』、第384号、2012、2-22頁。

森井裕一、「ドイツの安全保障文化の変容」、『国際政治』、査読有、167巻、2012、88-101頁。

羽場久美子、「The EU and NATO Enlargement and Central Eastern European Policy under the Influence of the USA--The Role of Poland in the EU and the Iraq War」、『青山国際政経論集』、査読有、84、2011、77-91頁。

羽場久美子、「拡大 EU における境界線とシテイズンシップ-ヨーロッパ・アイデンティティとゼノフォビア」、『社会志林』、査読無、54(4)、2011、35-53頁。

羽場久美子、「世界史からの歴史教育の提言 いかなる歴史認識を作っていくか? -ヨーロッパ中心主義から新しい普遍主義へ」、『学術の動向』、査読有、2011.10 .56-59頁。

羽場久美子、「多様化するソフトな地域統合 東アジアの地域統合と EU」、『学術の動向』、査読有、2011.6 .42-51頁。

羽場久美子、「世界史の『周辺』におけるジェンダー トラフィッキングと従軍慰安婦非難決議」、『歴史教育とジェンダー』、査読有、青弓社、2011 .

山本吉宣、「国際システムの変容と安全保障」、『海幹校戦略研究』、査読有、第1巻第2号、2011、4-29頁。

押村高、「トランスナショナル・デモクラシーはデモクラティックか」、『年報政治学』、査読有、2011(1)、2011、49-68頁。

押村高、「グローバルな諸問題への倫理的アプローチ」、『平和研究』、査読有、36号、2011、1-19頁。

天児慧、「アジア太平洋国際関係の新段階と地域統合の新機軸をもとめて」、『問題と研究』、査読有、7.8.9月号、2011、27-48頁。

羽場久美子、「グローバリゼーションとトラフィッキング」、『年報政治学』、査読有、2010-II、2010、174-193頁。

山本吉宣、「国際社会の制度化 レジーム論と国際立憲論の交差から」、『国際法外交雑誌』、査読有、109 巻 3 号、2010、391-420 頁。

袴田茂樹、「北方領土交渉はなぜ後退したのか」、『外交』Vol.4、査読有、2010、128-135 頁。

高木誠一郎、「冷戦後の中美関係:以日本の視角」、『変化中的東亜と美国』(北京、社会科学文献出版社、査読有、2010、72-80 頁。

森井裕一、“Germany and the Euro-Domestic Discourse on Monetary Stability and its Political Implications”、『日本 EU 学会年報』、査読有、第 30 号、2010、66-88 頁。

②1 羽場久美子、「冷戦終焉 20 年と中・東欧鉄のカーテン崩壊から現在まで」、『歴史評論』、査読有、第 716、2009、15-30 頁。

②2 羽場久美子、「冷戦終焉と「トラフィッキング」」、『歴史評論』、査読有、第 713、2009、33-44 頁。

②3 羽場久美子、「拡大 EU、東アジア共同体への示唆 対立から反映へ:地域統合の比較研究」、『学術の動向』査読有、2009.5 .14-19 頁。

②4 羽場久美子、「欧州議会はなぜ従軍慰安婦非難決議を出したか」、『学術の動向』査読有、2009.3 . 79-81 頁。

②5 山本吉宣、「国際システムはまた均衡に向かうか」、『アステイオン』、査読有、70 号、2009、27-45 頁。

②6 押村高、「グローバル化と共同体論の位相転換」、『政治思想研究』、査読有、9 号、2009、33-58 頁。

②7 押村高、「啓蒙の利害アプローチとヨーロッパの平和建設-サン・ピエールの永久平和論」、『平和の政治思想史』、査読有、2009、47-66 頁。

②8 森井裕一、「地域主義の経験と課題」、『日本国際政治学会編『日本の国際政治学 3 地域から見た国際政治』、査読有、2009、59-78 頁。

②9 羽場久美子、「拡大 EU と東アジア共同体 比較研究「4 つの和解」」、『国際アジア共同体ジャーナル』、査読有、創刊号、2008、141-158 頁。

③0 羽場久美子、“The Lesson of the EU Enlargement and the East Asian Community

and Shanghai Cooperative Organization, What and How we can learn from the European Integration”, *50 Year Rome Treaty and EU-Asia Relations*, ed. by Chong-Ko Peter Tzou, Tamkang University, 2008. 査読有。

[学会発表](計 20 件)

袴田茂樹、How Will the Change of Government Affect Japanese Foreign Policy?、日露シンポジウム、新潟県立大学、2013 年 2 月 13 日。

森井裕一、Japan and EU in Multilateralism, 15th Japan-EU Conference, University Foundation, Brussels, November 26, 2012.

羽場久美子、“The Asian Regionalism comparing the European Union”, CHIR(Committee of History of International Relations),(招聘講演)Key note speaker, Sorbonne University, Paris, France, 13-14 December, 2012.

羽場久美子、“The Tohoku Disaster and the Energy Questions considering the Energy Policy in the EU”, SCA(Science Council in Asia), International Conference, Bogor, Indonesia, 11 July, 2012.

羽場久美子、“Xenophobia and the European Union under Globalism”, IPSA World Conference, Madrid, Spain, July 2012.

羽場久美子、“Japan and the Asian Regional Cooperation under the Major Power”, The Great Power Politics and the Future of Asian Regionalism, International Conference, WCFIA, Harvard University, 11 May, 2012.

山本吉宣、Coopetitive Power Transition? : Security Architecture in the Asia-Pacific、2011 Defense Forum on Regional Security, Integrated Assessment Office, Ministry of National Defense, Republic of China, August 30-31, 2011.

羽場久美子、East Asian Regional Cooperation and the Role of United States, World International Studies Committee, Portugal, August 19, 2011.

天児慧、基調報告「岐路に立つ日中関係」、グローバルフォーラム・中国現代国際関係研

究院共催日中対話、日本国際フォーラム会議室、2011年10月26日。

羽場久美子、The New World Order and the East Asian Reorganization, Japan-India Government-Academic Collaboration, Indian International Center, Deli, India, March 23, 2011 (招聘講演).外務省招聘

羽場久美子、The Enlarged EU and the East Asian Regional Cooperation The Reconciliation with Enemies and the Alliance with the USA, International Studies Association(ISA), Montreal, Canada, March 19, 2011

羽場久美子、Lesson of the European Union and the Asian Regional Cooperation, Japan-EU Cooperated Symposium, Budapest, Hungary, March 3, 2011. (招聘講演)外務省招聘。

羽場久美子、リスボン条約後における拡大EUの政治戦略、日本EU学会、青山学院大学、2010年11月14日。

袴田茂樹、

」(危機状況において如何に日露関係を発展させるか)、国際シンポジウム「日露専門家対話」、東京、2010年3月16日。

羽場久美子、Twenty years of the End of the Cold War and the Regional Cooperation in Europe、CHIR(国際関係史学会日本大会)、外務省、国際交流基金、駐日EU(欧州連合)代表部、学術会議、青山学院大学共催、2009年12月5日。(欧州5大使館共催)

森井裕一、Germany and the Euro: Political Implications、日本EU学会、同志社大学、2009年11月14日。

羽場久美子、冷戦の終焉と中・東欧の地域再編、日本政治学会、日本大学、2009年10月10日。

袴田茂樹、

」(北東アジアにおける安全保障と日露間の信頼関係)、国際シンポジウム「北東アジアにおける安全保障と信頼関係」、ロシア、ウラジオストク、2009年7月2日。

羽場久美子、拡大EUと東アジア共同体、

日本政治学会、関西学院大学、2008年10月11日。

山本吉宣、地域統合-理論化と問題点"日本政治学会、関西学院大学、2008年10月11日。

[図書](計25件)

R.Boyer, Ivan T. Berend, and Kumiko Haba eds., *The Euro Crisis and European Political Economy, France, Germany and Central Europe*, Aoyama Gakuin University, 2013.

Kumiko Haba ed., *Great Power Politics and the Future of Asian Regionalism*, Aoyama Gakuin University, 2013.

天児慧編、勁草書房、『日中「歴史の変わり目」をどう展望する』、2013、335頁。

天児慧、The Age of Asia Pacific Community, EDUCA Inc., Japan, 2013.

山本吉宣・羽場久美子・押村高編著、ミネルヴァ書房、『国際政治から考える東アジア共同体』、2012、320頁。

John Ikenberry, Yoshinobu Yamamoto, and Kumiko Haba, Shohkadou, *The Institutionalization of the Regional Integration comparing Europe and Asia*, 2012, 290pp.

Kumiko Haba, Szerdahelyi Istvan, Brij Tankha & Wang Min eds., *Asian Economic Development and Collaborative Relations among EU, Asia and Japan*, Aoyama Gakuin University, 2012. 194pp.

羽場久美子、岩波書店、『グローバル時代のアジア地域統合 日米中関係とTPPのゆくえ』、2012、64頁。

天児慧編、『アジア地域統合講座』、勁草書房、2012、318頁。

森井裕一編、『ヨーロッパの政治経済・入門』、有斐閣、2012、318頁。

宮島喬・吉村真子編、法政大学出版局、『移民・マイノリティと変容する世界』、2012、262頁。

羽場久美子・溝端佐登史編、ミネルヴァ書房、『ロシアと拡大EU』、2011、351頁。

押村高・中山俊宏編著、ミネルヴァ書房、

『世界政治を読み解く』、2011、332 頁。

李鍾元他編、法政大学出版局、『歴史としての日韓国交正常化』2 脱植民地化編、2011、450 頁。

李鍾元他編、法政大学出版局、『歴史としての日韓国交正常化』1 東アジア冷戦編、2011、364 頁。

Robert Frank, Kumiko Haba and Hiroshi Momose eds., *The End of the Cold War and the Regional Integration in Europe and Asia*, Aoyama Gakuin University, 2010. 451pp.

押村高、勁草書房、『国際政治思想 生存・秩序・正義』、2010、252 頁。

押村高編著、風行社、『越える 境界なき政治の予兆』、2010、336 頁。

森井裕一編、信山社、『地域統合とグローバル秩序 ヨーロッパと日本・アジア』、2010、267 頁。

宮島喬、勁草書房、『一にして多のヨーロッパ』、2010、291 頁。

①山本吉宣、有斐閣、『国際レジームとガバナンス』、2008、450 頁。

②押村高、講談社、『国際正義の論理』、2008、240 頁。

③柴宣弘、明石書店、『バルカン史と歴史教育 「地域史」とアイデンティティの再構築』、2008、404 頁。

④森井裕一、信山社、『現代ドイツの外交と政治』、2008、216 頁。

⑤G. John Ikenberry, Yoshinobu Yamamoto, and Kumiko Haba, *Aoyama Gakuin University, The Regional Integration in Asia and Europe: Theoretical and Institutional Comparative Studies and Analysis*, 2011. 177p.

6. 研究組織

(1)研究代表者

羽場 久美子 (HABA, Kumiko)
青山学院大学国際政治経済学部・教授
研究者番号：70147007

(2)研究分担者

山本 吉宣 (YAMAMOTO, Yoshinobu)
青山学院大学国際政治経済学部・教授
研究者番号：20092025
(平成23年度まで)

袴田 茂樹 (HAKAMADA, Shigeki)
新潟県立大学政策研究センター・教授
研究者番号：40148581

押村 高 (OSHIMURA, Takashi)
青山学院大学国際政治経済学部・教授
研究者番号：20169296

天児 慧 (AMAKO, Satoshi)
早稲田大学アジア太平洋研究科・教授
研究者番号：70150555
(平成24年度から)

森井 裕一 (MORII, Yuichi)
東京大学総合文化研究科・准教授
研究者番号：00284935

李 鍾元 (LEE, Jong Won)
早稲田大学アジア太平洋研究科・教授
研究者番号：20210809

高木 誠一郎 (TAKAGI, Seiichirou)
青山学院大学国際政治経済学部・教授
研究者番号：90114214
(平成22年度まで)

手塚 和彰 (TEZUKA, Kazuaki)
青山学院大学国際政治経済学部・教授
研究者番号：90013010
(平成22年度まで)

(3)連携研究者

宮島 喬 (MIYAJIMA, Takashi)
法政大学大学院社会学研究科・教授
研究者番号：60011300

柴 宣弘 (SHIBA, Nobuhiro)
東京大学大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：50187390

山影 進 (YAMAKAGE, Susumu)
青山学院大学国際政治経済学部・教授
研究者番号：10115959